

「長寿」万博 効果6兆円

25年誘致へ 大阪府が試案

大阪府は16日、2025年の誘致を目指す

万博（国際博覧会）の基本構想の試案を発表した。メイン会場は大阪湾の人工島「夢洲」（大阪市此花区）で、「人類の健康・長寿への挑戦」をテーマに3000万人以上の入場



「夢洲」会場 3000万人構想

2025年大阪万博実現まで予想される日程

時期	工程
6月中	構想案作成に向け、有識者会議を設置
今秋	構想案をまとめ政府に提案
年内?	政府の閣議了解後、博覧会国際事務局(BIE)に開催申請
2018年ごろ?	加盟国の投票で開催地を決定
25年	万博開催

者を目指す。松井一郎知事は同日、林幹雄経済産業相、塩崎恭久厚生労働相と個別に面会して試案を説明。府は月内に有識者検討会を発足させ、8月中旬に構想をまとめる方針だ。

政府関係者によると、林経産相は「誘致に向けて全面的に支援する」と応じたという。試案では、夢洲の大阪市有地160haに健康・医療に関する最先端技術の体験コーナーや、世界の長寿の知恵を紹介する施設などを1500億〜1600億円かけて建設。市営地下鉄中央線を延伸して「夢洲駅(仮称)」を新設し、シャトルバスも

運行する。開催は25年4月から6カ月間で、参加は150カ国・機関、全国への経済波及効果を約6兆円と試算した。ただ、巨額の費用を確保できるめどは立っていない。松井氏は記者団に「国と地方、経済界で3分の1ずつ確保できるよう働きかけたい」と述べた。

検討会は大坂商工会議所や関西経済同友会、関西経済連合会の理事や幹事、国や府内の自治体関係者ら計27人で構成。座長に秋山弘子・東大高齢社会総合研究機構特任教授、副座長に橋爪紳也・府立大教授が就く予定で、元五輪マラソン代表の増田明美氏、オリックスの宮内義彦シニア・チェアマンらも加わる。

関西経済同友会の蔭山秀一代表幹事（三井住友銀行副会長）は記者会見で「資金面などのハードルが解決できるなら歓迎すべきだ」と述べた。夢洲を会場とする案には「インフラ整備を9年間でやり遂げなければならぬ」と厳しい見方だが、「最近、関西に国家事業がないのは事実。協力は惜しまない」と話した。【青木純、小坂剛志】